

平成16年8月  
長官官房総務課

## 第8回警察庁政策評価研究会要旨

### 1 日時

平成16年6月23日(水)午後2時から午後4時までの間

### 2 場所

警察庁庁議室

### 3 出席者

#### 委員

前田 雅英 東京都立大学法学部長(座長)  
妹尾堅一郎 東京大学先端科学技術研究センター特任教授  
高木 光 学習院大学法科大学院教授  
田邊 國昭 東京大学大学院法学政治学研究科教授

#### 警察庁

吉村 博人 官房長  
安藤 隆春 総括審議官  
茂田 忠良 政策評価審議官  
吉田 英法 官房審議官(生活安全局担当)  
和田 康敬 官房審議官(刑事局担当)  
矢代 隆義 官房審議官(交通局担当)  
岩橋 修 官房審議官(警備局担当)  
加地 正人 総務課長  
吉田 尚正 総務課企画官  
橋本 晃 総務課政策評価・情報公開企画官  
田代 裕昭 生活安全企画課犯罪抑止対策室長

### 4 議題

- (1) 平成15年実績評価経過報告書(案)
- (2) 平成16年警察改革の推進に関する総合評価経過報告書(案)
- (3) 平成15年街頭犯罪・侵入犯罪の発生を抑止するための総合対策の推進に関する総合評価経過報告書(案)
- (4) 平成15年実績評価書(基本目標8)(案)

### 5 議事要旨

#### (1) 平成15年実績評価経過報告書(案)について

認知・検挙状況の二つの指標をできる限り統一して各施策の効果を把握することについて、今後の評価書作成の際の検討課題としてはどうか。

実績評価経過報告書に「関係省庁との連携」という表現が数多く見られるが、これは、犯罪対策閣僚会議が開催され、犯罪に強い社会の実現のた

めの行動計画が策定されていることなどに見られるように、関係省庁間の連携が重視され、実際に進展しているためと理解してよいか。

関係省庁間の連携が実際に進展していることを反映している。

**(2) 平成16年警察改革の推進に関する総合評価経過報告書(案)について**

自動車ナンバー自動読取システムについては、これにより盗難車両を捕捉し、検挙した件数は減少しているものの、重要犯罪の解決などに大きな効果を上げているという趣旨を端的に表現することが望ましいのではないかと。

当該箇所の記載を変更する。

「警察改革の推進状況に関する国政モニター調査」結果の概要について」の「5 総括」については、今回のモニター調査を通じて警察が学んだことを率直に記載することが望ましいのではないかと。

当該箇所の記載を変更する。

**(3) 平成15年街頭犯罪・侵入犯罪の発生を抑止するための総合対策の推進に関する総合評価経過報告書(案)について**

暴走族追放条例等が制定された前後における暴走族の活動等を比較することにより、条例制定の効果を分析することについて、今後の評価書作成の際の課題としてはどうか。

各都道府県警察の街頭犯罪等抑止計画に関し、警察庁において、各都道府県警察による効果の検証の結果を分析した上で、フィードバックすることを検討してはどうか。

計画の達成状況に関し、地域間の格差、地域ごとの特色について分析することも、今後の評価書作成の際の課題としてはどうか。

今後の課題として検討していきたい。

**(4) 平成15年実績評価書(基本目標8)(案)について**

サイバー空間に関しても、関係省庁間の連携が重要であり、安全のための情報提供等を共同で行うことについて、今後、検討してはどうか。